

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【学校像】

「豊かな人間性をはぐくみ、社会に貢献できる青年を育成する」という建学の精神をもとにグローバル化・デジタル化する社会の中で求められる 21 世紀型教育を推進する。座学によって獲得した知識を柔軟に活用する思考力、多様な情報の中から課題を解決するための要素を読み取り、整理し、分析する力。様々な価値観を持つ人たちの意見を聴き合意形成を図る力を育成する。

【生徒像】

「気づく心」「考える力」「チャレンジ精神」を教育の 3 本柱とし、すべての教育活動を通して、次のような生徒を育成する。

- 社会的規律を尊重し、豊かな情操を身につけた品位ある生徒
- お互いの人権を尊重し、学校や地域社会の中で協力・共同できる生徒
- 自主的、自律的な学習態度で学力の向上をめざし、異文化に触れることによって、21 世紀を担う若者にふさわしい国際的な視野を持った生徒

2 中期的目標

各部・各学年で「基本的生活習慣の確立と大学進学実績の向上」という重点目標達成を目指して「部門活動計画」(部門目標シート)を作成し、成果目標の数値化を行い、その目標を達成するための具体的な行動計画を立てる。4 月に目標設定、10 月に進捗状況の報告、3 月に目標達成の結果と次年度への課題を校務会議、職員会議で発表し共通認識を図り課題を明確化していく。

※ 昨年度から授業・学級経営等のアンケートは業者を変え、より教員が自己分析をしやすいものに改めました。評価は「プラス評価」－「マイナス評価」で「指数」があらわされるものとなっています。したがって「60 指数以上」A、「20 指数以上」B、「20 指数以下」C と考えて評価・分析している。

1 生徒指導を根幹に据えた学習指導と生徒のニーズに応えられる進路指導をめざします。

(1) 基本的生活習慣の確立

学力向上の基盤は「基本的生活習慣」の確立なくしてあり得ないという教育信念から引き続き「気づく心の育成」「チャレンジ精神」「思考力の育成」に努め、自己管理能力(自制心)を高めます。また、生徒を指導する教職員の資質を向上するために機会あるごとに啓発を行っていきます。

ア、社会人としては許されない「遅刻」の防止に自ら努める「自己管理能力を育成」し時間を守ることの大切さを自覚させていきます。

イ、いじめを許さない「学級」「学年」「学校」文化を作り出し、生徒全員が安心して登校し学習できる学級・学校を目指します。

ウ、社会人として巣立つにふさわしい服装・マナーの向上に努め保護者から信頼される教育環境を作り出します。

エ、SNS やメールの使用上のマナーを含め、相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーションができるように指導します。

オ、教育裁判の事例を職員会議等で示して教職員の危機管理能力を高めていきます。

(2) 学力向上と進路実現

学力向上の基盤は、生徒の「自己管理能力の確立なくしてあり得ない」という教育信念から昨年度に引き続き、教科学習、講習等様々な教育活動を通して時間の使い方を学ばせるため 3 年目となる「学芸手帳」(バーチカルタイプ)の利用を促進し生活習慣を見直し時間の使い方の工夫から短期・中期・長期と計画的に学習活動(クラブ活動も含む)する習慣を定着させていきます。

この「自己管理能力」を高める中で保護者・生徒の願いである「4 年制大学進学」という目標を実現できるように進路ガイダンスを行い、希望進路の発見・実現に寄与するため教育課程を編成(選択授業での対応や多様な講習の実施)するとともに「電子黒板」「タブレット」「スタディー・サプリ」「英語サプリ」を利用した授業や自学自習を推進し授業改善にもつなげていきます。

また、大学入試改革に備えて特に本校が力を入れている国際理解教育の推進のために英語 4 技能の育成を図るために分掌組織に「英語教育研究会」を立ち上げるとともに 1 年留学制度の整備充実を図り、子どもたちのニーズに応えます。3 年目となる看護コースについても子どもたちの希望進路の実現を図ります。

これらの進路指導の基盤となる教員の授業力を高めていくため「生徒の授業アンケート」(年 2 回)を基に教職員間の相互授業参観等を実施し、授業内容の点検や教授法の改善に取り組みます。また、英語教員の力量を伸ばすための方策を実施します。

ア、教育のデジタル化に対応し「電子黒板」「タブレット」「スタディー・サプリ」「英語サプリ」の利用促進を行い授業改善に努めます。

イ、グローバル化に対応した教育活動を展開するため英語教育の改善と国際理解教育の推進をさらに図っていきます。

ウ、教員に対する生徒の授業アンケートを実施し「自己の授業の振り返り」を行わせ改善点の自己点検を行うとともに授業力向上のための相互授業参観を行い「授業に対する信頼度」「学習効果への実感度」等を伸ばし生徒の満足度を高めます。

エ、自ら課題を見つけ能動的に学ぶ習慣作りの一環として漢検・英検・数検などの資格試験受験者を増やしていきます。

オ、生徒の多様なニーズに応えるために教育課程の編成、多様な講習の機会を設定し進路指導を充実させていきます。

(3) 社会に貢献できる資質の育成

21 世紀は「正解のない時代」と言われています。この時代を生き抜いていかなければならない子どもたちにとって必要な資質は、さまざまな価値観を持つ人たちの意見を聞いて、合意形成を図っていく協調性・リーダー性・調整力だと言われています。本校がすべてのコースでクラブ活動を認めているのも教科の学習だけではなく、学校行事やクラブ活動、ボランティア活動等さまざまな体験学習を準備し生徒に成功体験を積み重ねさせる中でこれらの力を育成していこうとしているからです。

特に子どもたちの生活の基盤となる「クラス」において互いに助け合う精神の確立が大切だという認識のもとに教育活動を行っていきます。

ア、ボランティア活動やセレッソとのサポーターズマッチ、エコ活動、地域清掃活動を通して社会への関心を高めるとともに奉仕の精神を育成します。

イ、クラブ活動を活性化させ、勝利をめざし努力する過程で持続力や耐性を養い、仲間と協力しあう姿勢(協調性)を育成します。

ウ、体育大会や文化祭等の行事を通して他者への思いやりや自分の意見をわかるように相手に伝える力(コミュニケーション能力)、調整力を育成します。

エ、日々の授業に対する姿勢こそがクラブでの「集中力を養う最適の手段」であり、学習効果とは授業・クラブ・奉仕活動・学校行事への取組等すべてを含み向上していくものだということを教えていく。

2 保護者に信頼される学校づくり

(1) 保護者への情報提供

公立小中学校と違い「校区という地域」を持たない高校は、保護者との連携をいかに図っていくかが大きな課題といえます。そのためには子どもたちが担任をはじめ教職員を信頼し、学校生活を充実して過ごしている姿を保護者が感じることができるようにならなければなりません。また、「進学校」として進路指導を充実していくことも欠かせません。成績懇談や保護者集会を充実し、生徒や保護者が知りたい情報発信となるように情報の質を高めていきます。

ア、保護者の学校への信頼度(生徒・保護者へのきめ細かな対応と学校生活の充実)を高めていきます。

イ、学校からの情報発信力を高め、ホームページの閲覧者数を向上させ、開かれた学校づくりを通して保護者との信頼関係を深めます。

ウ、成績懇談や進路ガイダンスを充実し保護者・生徒に質の高い豊富な情報を発信し幅広い選択肢の中から進路を決めていくことのできる環境づくりに努めていきます。

(2) 危機管理体制の確立

地球温暖化の影響から豪雨・巨大台風の上陸をはじめ、いつ来るかも知れない地震への対応を考え、生徒の安全を第一にした防災体制を構築していくことが求められています。このため、交通機関が遮断されたり、大和川の水位上昇で帰宅困難となった場合の対応を関係機関と連携し構築していきます。

ア、避難訓練(火災時の避難経路と地震時の避難経路の区別)を通して集団で避難するときの心得を育成し、災害に備えます。

イ、学校として帰宅難民となる生徒が出た時を想定した避難物資等の準備体制や保護者との連絡体制を整えていきます。

また、日々の教育活動の中で「危険予見義務」と「危険回避義務」を教職員の使命との認識を深め、事故防止にも努めていきます。教職員賠償保険や第三者賠償保険にも加入して教職員の法的な意識向上に努めます。

【自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

〈自己診断の結果と分析〉	【学校協議会からの意見】
--------------	--------------

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基本的な生活習慣の確立	1 規律ある学校生活の確立 (1) 規範意識と自立性の育成 (2) 学級集団の育成 (3) 教職員の危機管理能力の育成 以上の三項目を達成する中で学習環境を整え学力向上をめざします。	「面白ければよい」と「ノリ」で見・行動する風潮、子どもの自立を阻む保護者の言動に歯止めを掛け自立した社会人としての成長を促すことが急務となっています。特にツイッター等の使用方法の間違ひから「いじめ事象」に発展しないように「考えて行動する習慣」の確立を目指します。 (1) 遅刻防止週間・服装違反撲滅週間等を定期的実施し、生徒の規範意識向上を図ります。 ○指導カードの発行による啓発 (2) 「いじめアンケート」を実施し、担任・学年主任・生活指導部・管理職による点検で共通認識を図りいじめを許さない学校づくりに専念します。 ○いじめ対策委員会の実施 (3) 学級の係活動や清掃活動を協力して行う雰囲気を作り真面目な生徒が損をしない、担任に不信感を抱かない学級づくりを行います。 ○教室の環境整備 (4) 生徒指導についての研修を実施します。 ○教育裁判で争われている事件・事故の事例を職員会議で示し教職員の学級経営や生活指導について研修を赤めます。	(1) 基本的な生活習慣確立のため各学年共に「一人あたりの遅刻回数」を1年2、2年3、3年5回以内とします。 (2) 「先生がいなくてもほとんどの生徒は服装・持ち物などのルールを守っている」という指数を40以上とします。 (3) 担任は①「生徒の態度や行動が間違っているときはきちんと叱ってくれる」や②「自分のクラスは規律ある雰囲気の中で生徒たちが過ごしている」という指数を60以上とします。 (4) 学級経営において「生徒間のトラブルは少なくクラスメートを大切にす風土がある」という指数を60以上とします。 (5) 学校生活全般を通じて「この学校には、いじめは少ない」という指数を60以上とします。 (6) SNSへの不用意な書き込みや人権を侵害する書き込み「0」(ゼロ)を目指す。 (7) 「教室はいつも清潔で	

			<p>整理整頓が行き届いている」という回答を 60%以上とします。</p> <p>(8)「教育裁判の事例から学ぶ」をテーマに事例報告を職員会議時に行っていきます。</p>	
2 学力向上と進路実現	<p>2 学力向上と進路実現に向けた取り組み</p> <p>(1) 生徒による授業満足度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業アンケート・相互授業参観 ○ 教育のデジタル化 電子黒板とタブレット利用の促進 ○ 英語教育の改善 <p>(2) 自学自習の態度を養成し意欲的に学習する姿勢を身に着ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スタディ・サプリ・管理自習室の利用促進 ○ 英検・漢検等資格試験受験の促進 <p>(3) 希望進路の発見と実現に寄与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国際理解教育の促進 ○ 多様な講習の充実 	<p>中堅進学校に位置付けられ、保護者の願いも「4年制私立大学への進学」となっている現状を考えると教師の授業力向上は本校教育の根幹をなすと認識しています。</p> <p>また、成熟した民主主義社会は「選択と自己責任」の社会と言える以上複雑化する大学入試の情報提供は欠かすことができません。</p> <p>授業力評価のアンケートを分析すると授業を受けて「学力向上実感」があると評価された先生は「好感度」においても高い数値をあげています。この保護者の信託に応えるために次のような取組をおこないます。</p> <p>(1) 授業力の向上をめざし、7月実施の1回目の授業評価で「何が評価を下げる原因となっているのか」「どの点を改善すればよいのか」を自己研鑽させます。また、相互授業参観(6月、11月)、ベテラン教師による若年教師の指導を充実します。特に新任講師に対しては、授業参観・レポートを作成させ教科での指導を充実します。</p> <p>また、主任を中心に担任・教科担任がクラスの授業の状態を把握し、問題がある場合はすぐに改善策を打つ体制を整備します。</p> <p>(2) デジタル教科書が急速に普及してくることに対応して全館整備が終了した電子黒板に加え、i-pad を利用し授業改善に取り組む。</p> <p>(3) 英語改革に対応し英語教育研究会を立ち上げ本校の英語教育について見直し改善を図る。</p> <p>(4) スタディ・サプリを導入し生徒の学習環境を整え自学自習を推進する。</p> <p>(5) 英検・漢検等の資格取得者を増やしていく。</p> <p>(6) 生徒のニーズの高い1年留学制度をさらに整備・充実する。</p>	<p>(1) 相互授業参観を年2回実施します。</p> <p>授業アンケートを実施し次の項目のプラス指数を向上させます。</p> <p>(2) 教員の「好感度指数」を60以上とします。</p> <p>(2) 「先生の授業を受けることにより学力や知識の向上を実感できる」という学力向上実感指数を60以上とします。</p> <p>(3) クラスにおいて「授業時間は集中して授業を受ける生徒が多い」という指数を60以上とします。</p> <p>(4) 「今の学校は希望進路の発見や実現に役立っている」という指数を40以上とします。</p> <p>(5) 「入試や進学に必要な情報が十分に提供されている」という指数を40以上とします。</p> <p>(6) 「進学講習が学力の伸長につながった」という指数を60以上とします。</p> <p>(7) 「明確な目標がありその実現に向けて前向きに取り組むことができている」という指数を60以上とします。</p> <p>(8) 電子黒板を利用した公開授業、タブレットを使用した授業研究を年2回実施します。</p> <p>(9) 英検準2級以上の資格保持者25%以上とします。</p> <p>(10) 電子黒板、タブレットを使った公開授業を実施します。</p> <p>(11) スタディー・サプリの初期設定ログイン95%を目指します。</p> <p>(12) 管理自習室の月利用者数を500、サテネット室利用者数を月350以上とします。</p> <p>(13) 英語教育改善の方策を打ち出します。</p> <p>(14) 1年留学制度の整備充</p>	

			実を図ります。	
3 社会に貢献できる資質の育成	3 社会性の育成 (1)助け合う雰囲気あふれるクラスづくり (2)部活動の活性化 (3)ボランティア活動の充実 (4)学校行事の充実	学校教育の目的は、教科指導による学力の向上とともに多様な体験活動を通して集団の中で協調性や耐性、社会性を育てることも大切な使命です。本校が「両立」を合言葉にすべてのコースで部活動を可能としている理由もここにあります。 (1)クラス経営力を向上させるため学年会での相互点検・改善を進めます。 (2)クラブ活動の成績と普段の学校生活は密接に関係することを指導しクラブと学習の両立を図ります。 (3)ボランティア活動の充実 地域清掃が集う、大阪マラソンボランティア活動への参加、セレッソ大阪とのサポーターズマッチへの参加を進めます。 (4)生徒の自主性を育てる学校行事を促進します。	(1)①「クラス全体の結束力が強く行事の中で達成感や一体感があると感じることが多い」②「困っているクラスメートがいれば誰に対しても手助けをする生徒が多い」という指数を 60 以上とします。 (2)「クラブ活動についても明確な目標があり、その実現に向けて前向きに取り組むことができている」という数値を 60 以上とする。 (3)「学校はいろんなことを体験させてくれる」「体育大会や文化祭も楽しい」という指数を 60 以上とします。	
3 信頼される学校づくり	3 保護者との信頼関係の醸成 (1)保護者と信頼関係の構築 ○ ホームページの充実 ○ 学芸新聞の発行 ○ 進路だよりの発行 (2)進路情報の発信 (3)防災教育への取り組み	高校は公立小中学校のように地域を校区として持たないために保護者への情報発信(学校生活充実度と進路情報の発信度)が信頼関係を築いていく上で大切な要素となっています。また、防災訓練等の安全生活に対する取組も緊急の課題であるという認識しています。 (1)担任のきめ細かな対応 体罰・暴言のないクラス・クラブ経営と教科指導を確立するための職員会議等を通じた啓発活動を進めます。 (2)ホームページの充実 ニュース、トピックスにて発信内容を周知する。 (3)授業参観や進路・生活指導についての保護者集会を充実 教員と保護者の距離感を縮め話しやすい環境づくりを行います。 (5) 学芸新聞の発行 (4) 防災教育の充実 ○避難訓練(火災時と地震時に分けて)の実施と防災備品の整備を行います。	(1)「入学前と入学後の学校のイメージは子どもに聞くと良くなった」という数値を 60 以上とします。 (2)「知人や将来は子どもに本校を紹介してもよい」という数値を 60 以上とします。 (3)担任は「生徒に対する言葉遣いや態度は丁寧で適切であると感じることが多い」という数値を 60 以上とします。 (4)「学校は一人ひとりの生徒を大切にしてくれる」という数値を 60 以上とします。 (5)学校からの情報発信源となるホームページの閲覧数を 22,000/月以上、直帰率を 17%以下とします。 (6)進路部長からの保護者対象の進路講話の充実と進路だよりを発行します。 (7)大和川決壊や地震等災害による帰宅困難者対応を行います。	